

# わたしの聖戦

◎◎女性が働くということ◎◎ 7

医学ジャーナリスト 植田美津江

## なりたいたい職業

第一生命がおこなっている恒例のアンケート結果が発表された。

小学生を対象にした「なりたいたい職業」である。これは大人が知って楽しい、大人のための調査だといつも思う。自分にもそんな「夢」を見た日々があったことを思い出させてくれ、微笑ましいような、どこか懐かしいような幸福感をしみじみ味わうことができる。

さて、今年の結果は、男の子が1位「学者・博士」、2位「サッカー選手」、3位が「野球選手」であった。女の子は1位「食べ物屋さん」、2位「看護師」、そして3位は「保育士」だという。

学者・博士の台頭は、明らかに日本人がたてつけにノーベル賞を受賞した余波だろうが、スポーツ選手は男の子の定番だそう、これを知ってホッとするのは私だけだろうか。

全員が自分のなりたいたい職業になれるわけではない。ましてスポーツ選手などは本当に極くひとにぎりの人だけが達成できる職業である。でも、多くの男の子は、大人の思惑や知識、その人生経験にひれ伏すことなく、堂々とそれを夢として口にする。それはなんと素晴らしいことだろう。女の子は「○○屋」というのが多い。1位の食

べ物のほかには「花屋」「ペット屋」というのが10位内に登場する。これもどこことなく微笑ましい。また、実際には重労働であり、慢性的に人手不足の「看護師」も小学生の女の子には人気があり、常に上位を占めている。

うのである。10代とはいえ、しっかりと世の中を見渡す目を持ち、思慮深くなったからだともいえるが、このような変化が周囲の発言や意見によるものである事実も見逃せないだろう。



しかし、中学生以上になると、「学者」とか「スポーツ選手」「○○屋」になりたいたい、とはまず言わない。それよりも、楽

で収入のいい職業は何だろうと考えたり、OLになりたいたいと言ったりする。急に現実的になってしま

たとえば、小学生のときにスポーツ選手や食べ物屋になりたいたいえば、親を含むたいていの大人たちは「そう、いいわね」と目を細めてにこやかに微笑むだろう。しかし、中学生かそれ以上になると、「そんなのは無理だ」とか「自分で店をやっていくのは大変」とか、「将来のためにはやはり大企業に就職したほうがいい」とか、そんなコメントになってしまふ。段々と現実的にならざるを得ないわけだが、同時にそれは子供の夢をつぶしていくことにもつなが

っている。そして、大学卒業時にもっとも人気があるのは「公務員」という、実に夢の乏しい、生活の安定だけを求めた答えが断然多くなってしまったのだ。その間たった15年である。ほんのわずかな時間に、子供たちの夢は、現実やシタリ顔の大人たちを前にしてどんどん行き場を失い、まったく語られなくなってしまったのである。

たまには「おとなになつたら何になりたい?」と自分自身に問いかけてみよう。何歳になつても夢を見たり夢を語るといふのは、なかなか気持ちのいいものだ。それを現実逃避と安易にいうなかれ、夢を持ち続けることは、長い人生を生きていくうえで大切な「おとなの智慧」だと思ふのである。

(財)愛知診断技術振興財団理事・研究所長

イラスト・三浦義雄